

農政産業観光委員会 県内調査活動状況

1 日 時 令和元年10月29日(火)

2 委員出席者(9名)

委員長 猪股 尚彦

副委員長 流石 恭史

委員 浅川 力三 久保田 松幸 水岸 富美男 杉原 清仁
清水 喜美男 古屋 雅夫 佐野 弘仁

3 調査先及び調査内容

(1) 【農業生産法人黒富士農場及び有限会社小林牧場】

○調査内容(主な質疑)

問) 黒富士農場の取り組みについてお聞きする。卵の品質管理においては、卵の大きさや重さ、色などいろいろな管理項目があると思うが、管理項目は幾つあるのか、また、どのように卵を管理しているのか。

答) 取引先の生協関係において、卵重等が規定で決まっている。フリーサイズのものもあるが、機械で卵重等を細かく測ることができる。また、卵の中の異常の有無についても機械で検知することができるため、例えば、血玉や、ミートスポットと呼ばれる大きい肉の塊まで、全て発見することができる。さらに、機械だけでなく、人間の目でも二重チェックを行うので、本農場から異常卵が出回ることはない。流通過程で卵が割れてしまい、クレームが来ることもあるが、卵を包むパックをより強固なものに改善して、極力、製品が割れないよう努力している。

問) 卵の異常が発見された後、再発防止のため、どのように改善していくかが重要だと思う。改善効果はすぐに出ないと思うが、どのような対策をとっているのか。

答) 卵殻の強度を上げるため、カルシウムを多く含むカキ殻を鶏に与える餌に添加している。また、腸の働きをより活性化して、病気になりにくい元気な鶏に育てるため、クロレラなどの病気になりにくい発酵飼料も与えている。このような取り組みを通じて、極力安全に配慮した、おいしい卵をお客様にお届けするための努力をしている。

問) 小林牧場においては、牛の糞尿等の有機質堆肥を使用して、ぶどう農家がぶどうを生産し、そのぶどうからワインを製造した際に発生するぶどう粕等を牛の飼料とする循環型農業に取り組んでいるとのことだが、牛に与える餌を外部から調達することもあるのか。

答) ぶどう粕のほか、おからや飼料用米を牛に与えている。飼料用米は、山梨県の白米を活用したいと思っているが、牛に多く与えすぎると悪影響があるため、山梨県のお米農家と

提携して、少しずつ活用していきたいと考えている。

問) 黒富士農場にお聞きする。通常、卵は1パック200円から300円くらいで販売されるが、スーパーで卵が1パック100円で安売りされることもある。そういう場合、生産者とスーパーのどちらが安売りした分を負担するのか。もしくは、そういう安売りはしないのか。

答) 本農場は、昔は県内の全てのスーパーと取引をしていたのだが、販売価格がその時々々の市場価格に左右されてしまうこともあり、現在では、県外のデパートや生協、生活クラブ等が販売先となってきている。

本農場では、非常に高価な餌を鶏に与えていて、オーガニックの卵は、通常の遺伝子組み換えの餌を与えている鶏の卵に比べて、3倍のコストがかかっており、1個90円以上で卵を販売しないと、商売が成り立たなくなってしまう。放牧卵、さくら卵に関しては、販売価格が1個30円台から50円台となっており、我々のオーガニックの取り組みに共感していただいたお客様が購入している。

我々は、これからもオーガニックを推進していきたいと考えている。県内においては、卵は家庭向けの販売が主であるため、需要がまだまだ低い状況にあるが、県外ではデパートや生協、生活クラブ等が販売先となってきており、オーガニックの鶏舎は、もともと18鶏舎のうち1鶏舎しかなかったが、現在では3鶏舎に拡張している。

問) 豚コレラが流行しているが、黒富士農場では鳥インフルエンザへの感染は過去にあったのか。

答) 鳥インフルエンザは、空から爆弾が落ちてくるようなもので、一羽でも感染してしまうと全ての鶏を殺処分せざるを得なくなる。本農場では、最大限の防疫体制を敷いており、バードネットという細かい網を全て金網にかえたり、石灰を全ての鶏舎にまくなどの対策をとっている。2年前に非常に鳥インフルエンザが流行し、最近は少し落ちついてきているものの、引き続き対策が必要と考えている。このため、八ヶ岳に第2農場を構えて、万が一、本農場で鳥インフルエンザが発生してしまった際は、八ヶ岳から卵を供給できるよう、事業を進めている。



※ 黒富士農場ゲストハウスにて概要説明を受け、質疑を行った後、施設内の視察を行った。

(2) 【意見交換会】

① 出席者 一般社団法人山梨県機械電子工業会の役員企業の方々

② 内 容 「県内中小企業の現状と今後の展望」

○主な意見

議 員) 機械電子工業会の会員企業は、県内企業の出荷額の約75%を占めており、山梨県経済の屋台骨を支えている。自然災害で日本は大混乱しているが、その対策として、BCP計画を策定することが大変重要だと言われている。各企業、あるいは機械電子工業会を中心に、BCP計画の策定が、具体的にどのように進んでいるのか、お話を聞かせていただきたい。

出席者) 私の会社では自動車部品を加工している。自動車部品は待ったなしの部品であり、各メーカーが工場監査で来たときも、BCP計画の策定について厳しく指導を受ける。私どもの企業は、横浜に関連企業があり、そこでも熱処理をやっているが、横浜と甲府の2拠点ともに災害に遭わない限りは、お客様に製品を供給できる。

ただ、甲府の拠点が被災した場合、最も危機感を抱いているのが、交通手段の断絶である。中央自動車道や東名高速道路、幹線道路が閉鎖されたり、電車がとまった場合は、物が供給できない。数年前に大雪が降ったときは、トラックで配送できない状況が約1週間続いた。中央自動車道と東名高速道路と幹線をつなげる、中部横断自動車道が完全開通すれば、どちらかの高速道路が閉鎖されても物の供給ができる。幸い山梨県は非常に災害の少ない地域だと思っているが、釜無川が氾濫したとき、水位が30センチから50センチと想定されているので、その程度であれば、土のうで対応できると考えている。ことし、佐賀県の佐賀鉄工所が、熱処理の冷却油が漏れて相当迷惑をかけたと思うが、我々のところでも起きないか、検証して対策を検討している。

議 員) 機械電子工業会の会員企業が、BCP計画を何%ぐらい策定しているのか、何かデータはないのか。

出席者) 本会としてBCP計画の策定状況について統計的な資料を持ち合わせていないが、山梨県全体では余り高くないという話を聞いている。特に、東日本大震災後に、BCP計画がかなり取り沙汰されて、積極的に取り組むという姿勢があったが、現在では話が立ち消えのような格好になっているので、もうちょっと取り組んでいくことが大事ではないかと考えている。

議 員) 機械電子工業会ばかりでなく、サービス業も、あらゆる面で人手不足の悩みは多いと思うが、働き方改革への対応についてお聞きしたい。

出席者) 働き方改革は、ヨーロッパなど海外諸国と比べて日本の労働環境がよくないという議論から始まったものである。働き方改革に取り組んでいく必要はあると思っているが、日本、特に山梨県には中小企業が圧倒的に多い状況にある。例えば奥さんが子供を産んだときに、旦那が1カ月以上出産・育児に携わるといことが、中小企業で成り立

つのか。残業が規制されると、人手が足りない中、どうやって補うのか。また、政府が海外諸国に並ぶため、最低賃金を上げようとしているが、中小企業のものづくりで最低賃金を上げるのであれば、生産性を上げるか単価を上げていかないといけないが、企業の努力だけでそれは難しい。つまり、仕事をやめることも考えないといけない。働き方改革の一番悪いところは、そういうところだと思う。

大企業は対応力を持っているが、中小企業には、なかなか難しい課題がある。先生方にも理解いただきたいが、山梨県の企業の80%、90%は中小企業だから、我々も努力はしているが、できる企業とできない企業がある。零細といわれる企業では特に難しい。そういう事情も踏まえて弾力的に考えないと、いきなり「あしたからやれ」、「あさってからやれ」と言われても厳しい。

議員) 私も零細に近いサービス業をやっている。社員が有給休暇をとることもあるが、人がいないと仕事が回らない。月2回、有給休暇をとってもらっているが、働き方改革は大手企業向けの施策だと思っている。働く人がいないなら仕事をやめなくちゃならないというのは、そのとおりだと思う。いずれにしても、零細企業は働き方改革に苦しんでいる。

もう一点、長崎県政がスタートして、現在新たな主力産業の育成を目的としている、メディカル・デバイス・コリドー構想について、皆さんのお考えをお聞きしたい。

出席者) 実は、加藤電器製作所は医療機器を製造していて、年間約20億円売り上げている。医療機器産業の難しさも知っており、県産業労働部にも申し上げているのだが、医療機器を販売するというのは、製品に不具合があった場合、補償問題が伴ってくる。そういうリスクがある中で、中小企業が医療機器産業に参入できるとは思っていない。

長崎県政も、コンサルに調査分析を委託して慎重に進めようとしている。三菱総研や私もそこに参加しているが、どのように山梨県に合った産業構造にしていくのかが重要であると考えている。既に、静岡県の東部には、ファルマバレーという約8,000億円の年間売り上げを誇る日本で一番の先進地がある。ファルマバレーには、山梨県にはない医薬品産業も参画している。

長崎知事は、MRIやCT等に使っているミクロの精度を持った機械電子の技術を応用できないのかということを考えていると思う。

だから、そういう技術をしっかり教育していくとともに、山梨県産業のあり方をしっかり検討していければ、新産業にプラスになる。そうなれば、とてもいいことだと思う。

議員) 長崎知事は、中部横断自動車道が開通すれば静岡県からそういう産業が山梨県に流れてくるのではないかと言うが、加藤会長が言うとおりに、今後の対応が重要だと思う。

出席者) 機械電子工業の業界で、結構受けとめてくれる企業があると思うが、医療機器が人体にどういう影響を与えるのかまで勉強していかないと、なかなか参入できないと思う。

議員) 2年前に、本委員会との意見交換を行ったときに、都留市の株式会社サイトウの斉藤社長が、このままだと人手不足で倒産してしまうということをおっしゃっていた。

ことしの4月1日から入管法が改正されたが、外国人労働者の増加について、実感はあるのかお聞かせいただきたい。

出席者) 昨日、政策金融公庫が主催する外国人研修生受け入れの講演会が開催された。講演会後の分科会では、外国人労働者の雇用に関してディスカッションをしたが、雇用した外国人労働者は職場の情報を頻繁に情報発信するので、条件のいいところに移ってしまう。また、研修生も、途中でやめるケースが結構ある。例えば、年間で5人の研修生を受け入れている会社では、1年に1人どこかへ行ってしまったり、外国人労働者の女性が妊娠して帰国する話を聞くことがある。外国人労働者の給料、待遇が日本人と変わらなくなっている。

ただ、日本人がやりたがらない仕事をやってくれるのは利点である。また、昼夜を問わず働いてくれる。外国人労働者を雇用する場合、住まいを用意するなどの費用が加算されるので、決して安くはないが、山梨県のものづくりの生産性を上げていくには、絶対に必要な存在である。住居手当等があれば、もっと外国人労働者の雇用が促進されるし、空き家対策にもなると思うので、みんなで工夫し合って受け入れ体制を整えていくべきではないかと思う。

議員) 地元の山梨市で、中小労務改善協議会の皆様と同じような仕事をやっていて、さまざまな中小企業の方々と触れ合う機会がある。今、働き方改革の話をお聞きして、経営安定と労働条件の改善の問題は、必ずしもリンクしないものと受けとめた。山梨県政の課題は、若者の県外流出の阻止だと思うが、経営者の感覚からいって、この状況を改善することについてどのようにお考えなのか。私たちも、しっかりした改善案を持ち得ていないので、ぜひこの機会にお聞きしたい。

個人的な話になるが、私の子供が大手企業の子会社で、水道管理の仕事をしているのだが、全く労働条件はひどいもので、年次休暇は自分の意思では絶対とれなくて、勝手に休日を当てはめられるし、休日自体が年間通して少なく、泊まりがけで働くことが多々あるので、若者はそういう会社にはいられないなという気持ちを率直に抱いている。意見をお聞かせいただきたい。

出席者) 日本の人口が今後激減するとともに、山梨県の人口も出生数より死亡数がさらに多くなり、自然減がふえると言われている。人口の自然減を食い止めることは難しいが、政策次第で社会減を若干とめることはできると思う。

現状は、山梨県の高校を卒業して、県外の大学へ行って、戻ってくる若者は20%ぐらいしかいない。甲府工業高等学校専攻科の来年の卒業生は、二、三十人が県外に出ると見込まれている。一方で、産業技術短期大学の卒業生は、やめる人が少ない。2年間でしっかり技術を身につけて就職するからだと思う。産業技術短期大学の卒業生で恐らく県外へ行く人は1人か2人で、多くは山梨県に残る。高卒の就職後3年以内の離職率が約40%であることも問題だが、もっと若者の県内就職促進に行政が力を入れないといけない。

若者の県外就職は外国人労働者の問題につながるが、例えば、社員50人いるとしたら、コアの人材が10人から15人くらい必要である。今、第4次産業革命の時期を迎えているが、産業構造ががらりと変わろうとしているときに、外国人労働者だけに技術的な仕事を任せるわけにはいかない。そのことをご理解いただいて、知事とともに若者

の県外流出の阻止に取り組んでいただきたい。

議員) 加藤会長から、新卒がなかなか入社しないという話があった。特に甲府工業高校の話もあったので、金丸常任理事から、一言もらいたい。

出席者) 学校をよく回るようにしているが、学校側が産業界をどう見ているのかがわかりにくい。1年に1回でもいいから、甲府工業高校の先生でもいいし、韮崎工業高校の先生でもいいのだが、現場を見てもらいたい。

また、私たちは一生懸命やっているが、産業界がどのように動いているのかを知らない県職員が大勢いる。行政と産業界がもっと密接になっていくため、議員のお力をいただきたいし、部長や課長に見に来て欲しいとは言わないが、2年や3年に1回は、「伊奈鋼業さん、どうでしょうか」と言いに来てくれる職員がいてもいいのではないかと思う。よろしくお願ひしたい。

議員) 私は、大学卒業後、山梨県にずっと住んでいる。山梨県に戻ってからは、まず、機械電子工業会会員企業であるオーテックで、機械開発の仕事をし、当時、今の社長に一生懸命訓練いただいた。その後、東日へ移ってもものづくりの仕事に携わった。私の息子も大学卒業後、山梨県に戻り、若草にある中小企業に就職した。

誰かが中小企業の魅力をPRしないと、理解されない。キャノンとオーテックを比べたら、失礼だが、キャノンへ行きたくなる子供は多いだろう。しかし、中小企業にも大きな魅力があって、例えば設計から製作、部品管理までできるというのはおもしろい。

県内の中小企業が元気にならないと山梨県は活性化しないとつくづく思う。そうはいうっても、息子に聞いてみると、山梨県内の企業からの大学へのアプローチが少ないようだ。私は息子に自分で企業を見に行ってくいと行って、その結果、息子は若草の企業に就職したが、息子も「全然県職員が来ない」とよく言う。企業は、「魅力があることを訴えたいけど、聞く耳を持ってもらえないし、どうなっているんだ」と思っているかもしれない。

1つお伺いしたいのだが、八王子や諏訪など、山梨県に近い県外の地域にある理系大学に対して、中小企業から就職あっせんのアプローチをしているのか。また、アプローチしにくいのであれば、県が大学へどのようにアプローチすればいいのか、意見をいただきたい。

出席者) 機械電子工業会では、企業や、ポリテクセンター山梨、山梨大学、甲府商科専門学校等とともにマッチングを行っているが、取り組みは県内にとどまっており、八王子や諏訪の大学については参画していない。

山梨大学については、いろいろな情報を得るべく頻りに訪問や情報交換をしている。去年から就職活動の時期が早まっているので、ことしから1年生や2年生を対象にアプローチをしていこうと考えている。また、山梨大学の学生に県内就職していただけるよう、県と山梨大学が、一緒に事業を進めている。

議員) 技術職の場合、自分の力を試したくて転職するケースもある。しかし、求人サイトにアクセスすると、現状、期間雇用の求人がたくさん出てきてしまっている。そこで伺いたいのだが、求人サイトに技術職を雇用したいというアプローチをしているのか。

出席者) 市場開拓事業の中に、山梨テクノICTメッセというものがある。今年度から、山日YBSとともに、ものづくり大学の学生を対象とした就職セミナーを、従前の展示会と同じ会場で新たに始めたものである。どのぐらい成果が上がってくるのかはわからないが、非常に期待している。

議員) 特色のあるおもしろい企業が山梨県にたくさんあることをアプローチしてもらえると、山梨県に戻りやすくなるという声もある。県内高校の卒業生の7割は県外へ出てしまい、山梨大学へ進学する子供は少ない。県外へ出ていった若者を呼び戻すには、県外へのアプローチが必要だと思う。

最後に、メディカル・デバイス・コリドー構想は、ファルマバレーセンターを目指すべきだと思っている。産業集積を進めるためには、世界一、日本一の技術を持つ県内の中小企業を集めていく必要があると考えるが、いろいろな障害がある。外国人労働者の雇用ではなく、高い技術力を持つ日本人を雇用するとともに、県外へ出た若者が山梨県に戻って就職することが一番大事だと思う。この構想について、医療機器産業にそれぞれの県内企業が持つ技術を生かしていく方策があれば、聞かせていただきたい。

出席者) 中小企業がいきなりメーカーになって製品を販売するのは難しい。問題が発生すれば、2億円、3億円という補償が発生してくる。また、製品の信用性の問題があるので、結局、大手企業のサプライチェーンに中小企業を組み込んで、ものづくりをしていかないと、一般の工業製品と同じように、失敗するのではないかと辛口で申し上げたい。

医療といってもいろいろあって、例えば、医療サービス分野において、使い捨ての綿、ピンセット、はさみのビジネスだけでも4,000億円、5,000億円規模になり、ファルマバレーに参加しているところもある。しっかり勉強していけば、山梨県にも十分可能性はある。そのことは長崎知事に直接申し上げている。

議員) 私は観光業に携わっており、中小企業における人手不足問題の話をかねてより聞いているが、正直なところ、機械電子工業には人手不足問題はないと思い込んでいた。なぜかという、人間の労働を機械がカバーしているものと思っていたからであるが、この業界では、人間が作業する部分は少ないのかどうか教えていただきたい。

出席者) 今の時代、機械、ロボットが作業する割合が大きいことは間違いない。だが、それでも人手が足りないということである。それを理解してもらわないと困る。

議員) 神奈川県の大和市だったと思うが、70代は高齢者ではなく戦力だという言い方をしている自治体がある。60歳で定年退職するよりも、65歳、70歳は戦力になると思う。その年代の方々には、これまで培ってきた能力、技術があると思うが、その辺のところはどのようにお考えか。

出席者) 私は88歳で、会社の会長を務めているが、毎日出勤している。そういう人間もいる。

議員) 75歳までは、健康であればサービス業の仕事ができると思う。皆さんの会社のように、細かい機械の仕事を70歳前後まで続けるのは、大丈夫なのかなと思うのだが、

その辺のところはどうか。

出席者) 私の会社では、定年が60歳だが、役職を変えて68歳まで働いてもらっている。それ以上の年齢になっても働きたい人は歓迎する。そういうのが今の会社の姿。私のように、90歳に近い男も現場へ毎日通っている。

議員) 7年後にはリニア中央新幹線の開業が予定されている。来年は、中部横断自動車道の開通も予定している。また、須走から新東名高速道路への接続も、来年度中に一部開通、2023年には海老名まで開通すると聞いている。アクセスがよくなってきているが、人材確保は引き続き課題である。甲府駅から品川駅までリニアで15分で移動できるようになったときに、県外の人材を雇用する県内企業への税制を優遇したらどうかと、知事に提言することを考えているが、どうか。

出席者) 山梨県は、これからますますよくなると思う。リニアが開業すれば、駅周辺は高くなると思う。

議員) リニア中央新幹線の開業を契機に、県外の人材を雇用したときには税制優遇もどうかと、医療立県のことも含めて検討してもらおうよう知事に提言していきたい。

出席者) リニアに乗って15分で甲府まで来られるようになると、山梨県は最高の場所になる。県民はそういう考え方でいる。ぜひこれからも応援をお願いしたい。

議員) 先般、5G技術について、人手不足に悩む建設業や農業分野への技術転用が今後進んでいくという話を総務省担当者から聞いた。話の中でスマート工場というキーワードもあり、ローカル5Gなどを敷設して工場内の自動化に使えるようになるとのことだったが、皆様の中でそういう計画や期待する面などあれば、教えていただきたい。

出席者) 私の会社はその部品を結構つくっている。

5G技術は、第4次産業革命の中心的存在である通信スピードの速さが売りで、今の通信スピードの約100倍、通信量も100倍、掛けると1万倍になる。この速さを利用して、おっしゃるようなスマート工場、遠隔地への通信がスピードアップしていく。5G対応のスマホが出ているが、残念ながら中国のファーウェイという会社が非常に強い。アメリカも、ネットビジネスや無人運転などに力を入れており、大変な覇権争いが起こっている。日本が部品を結構つくっているが、これからもこの分野は拡大していくと思う。

通信スピードや通信量がふえていくので、データセンターのサーバーを5Gに対応できるように構築ができたところが、世界を制覇すると思う。GAF A（グーグルやアップル、フェイスブック、アマゾン）のシステムにはもう組み込まれている。



※ アイメッセ山梨にて意見交換会を実施した。

以 上